

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆上場企業の平均給与、25年度は692万円 1000万円以上は初の200社超

・帝国データバンクは2025年度の上場企業の平均年間給与が24年度比3%増の692万円だったと発表。5年連続で前年度を上回り、同社として比較可能な03年度以降で最高。24年度と比べて平均年間給与が増加した企業は77%。増加率は「2.5～5%未満」が最も多く、全上場企業の25%。「5～10%未満」(20%)、「1～2.5%未満」(14%)が続いた。

◆日銀の景気判断、全地域で据え置き 中東情勢悪化の懸念和らぐ

・日銀は7月の地域経済報告(さくらリポート)を公表。全国9地域の景気判断を前回の4月から据え置いた。中東情勢の悪化に伴う物流の停滞や原材料不足の懸念が低下し、人工知能(AI)関連需要が幅広い業種に波及。3カ月に1度の支店長会議を開きリポートをとりまとめた。多くの地域で「緩やかに回復」または「持ち直し」の基調が続いていると判断。

◆長期金利上昇、30年ぶり一時2.9% 中東再び緊迫でインフレ懸念

・国内債券市場で長期金利の指標となる新発10年物国債利回りは一時2.900%に上昇(価格は下落)。1996年9月以来30年ぶりの高水準。中東情勢が再び緊迫し原油価格が上昇。インフレ懸念に伴う債券売りが強まった。前日からは0.035%上昇。96年当時は売買高の多い指標銘柄が長期金利とされていた。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆6月の工作機械受注53%増、単月最高の2035億円 半導体向けなど好調

・日本工作機械工業会が発表した6月の工作機械受注額(速報値)は、前年同月比53%増の2035億円。プラスは12カ月連続。単月の受注額では3月(1934億円)を上回り過去最高を更新。単月の受注額が2000億円を超えるのは初めて。海外受注が56%増の1454億円と引き続き好調に推移し、国内受注も580億円と46%増えた。

◆東京ガス系、30年度に業務量3割減へ 設備点検などを効率よく

・東京ガス子会社で導管事業を担う東京ガスネットワークは報道関係者向け事業説明会を開き、都市ガス供給に関わる設備の点検などを効率よく実施し2030年度に会社全体の業務量を24年度比で3割削減。都市ガスホルダーの点検作業を公開。初の認定高度保安実施事業者に認められ、中低圧導管の検査を4年に1回から8年に1回に削減検討。

◆鉄スクラップ輸出入札、7月は3.7%安 高値警戒で2カ月連続下落

・鉄スクラップ事業者でつくる関東鉄源協同組合が開いた7月契約分の輸出入札で、落札価格は1トン5万2508円となった。前月から1998円(3.7%)下落した。値下がりとは2カ月連続。下落率は前回の96円(0.2%)から拡大した。落札数量は1万5000トンでベトナム向けだった。

《 注目商品 》

■パナソニック、「外でもドアホン」をフルモデルチェンジ

・AI機能搭載モニター付テレビドアホンをフルモデルチェンジ。事前登録した顔情報に応じてAIが顔を認証し自動メッセージによる来訪対応が可能。未登録者には自動録画と用件確認を行う。「うろつき検知」機能は、エリア内に約30秒間とどまった人物をAIが自動録画。



■三協立山・三協アルミ社、集合住宅向け宅配ボックス

・既存集合住宅の限られたスペースにも柔軟に設置できる宅配ボックス。階段下を有効活用できる段差施工やポール建てなど多彩な設置方法を設定し、宅配ボックスとポストの自由な組み合わせや連結設置も可能。



■リンナイ、エアバブルテクノロジー搭載の業務用ガス給湯器

・微細な泡を水に溶け込ませる独自技術「Air Bubble Technology(エアバブルテクノロジー)」を搭載した給湯能力24号の業務用ガス給湯器。ウルトラファインバブル発生装置を内蔵することで、水まわりの汚れを軽減する効果が期待できる。排水管汚れの残存率低減を確認。

